

町村合併と新制中学校の統廃合プロセスの関係

山口県における公立中学校の創設と昭和の市町村合併による再編過程その2

公立 中学校 再編
市町村合併

準会員 ○三谷 亮太*
正会員 中 純一**
正会員 牛島 朗***
正会員 中園 真人****

1. 自治体の再編状況

本研究では、1947年に創設された新制中学校が昭和の市町村合併を機にどのように再編されていったのかその過程を明らかにすることを目的とするものである。表1は昭和の市町村合併に関連する制度を示している。戦後、地方行政の担う責任は大きくなり、新制中学校の管理等諸業務を各市町村が効率的に担うことができる方策が求められた。そこで、1953年に町村合併促進法が制定・施行された。これは8000人未満の町村を対象に合併を進めたものである。1956年には新市町村建設促進法が制定・施行され、適正規模に満たない市町村に対して町村合併促進法失効前に合併の勧告を行うなどして合併を推進し、全国で大規模な市町村合併が行なわれた。図1は先ほど述べた2つの法律により、市町村合併が行なわれた前後の山口県の市町村区分を示している。山口県では合併前の228市町村から58市町村まで自治体数が減少している。

表1 市町村合併関連制度

法・制度	本文抜粋
町村合併促進法(1953)	第一条 この法律は、町村が町村合併によりその組織及び運営を合理的且つ能率的にし、住民の福祉を増進するように規模の適正化を図ることを積極的に促進し、もつて町村における地方自治の本旨の充分な実現に資することを目的とする。 第三条 町村は、おおむね八千人以上の住民を有するのを標準とし、地勢、人口密度、経済事情その他の事情に照らし、行政効率を最も高くし、住民の福祉を増進するようにその規模をできる限り増大し、これによつてその適正化を図るよう相互に協力しなければならない。
新市町村建設促進法(1956)	第一条 この法律は、町村合併を行つた市町村の新市町村建設計画の実施を促進して、新市町村の健全な発展を図り、あわせて未合併町村の町村合併を強力に推進することにより、地方自治の本旨の充分な実現に資することを目的とする。

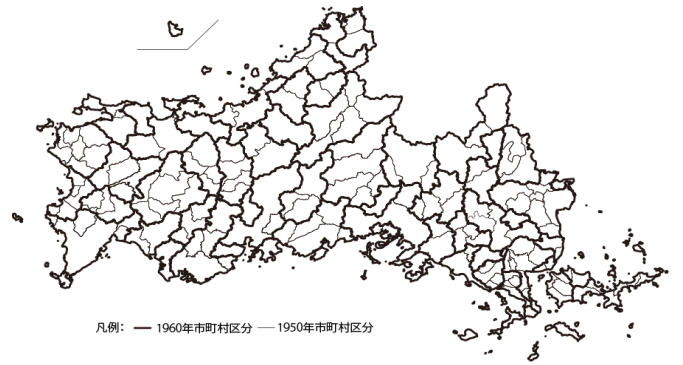


図1 市町村区分(1950と1960)

表2 山口県の市町村区域の変化

2. 合併後の統廃合プロセス

次に市町村合併により旧自治体に設置されていた新制中学校がどのように再編されたのかを見ていく。表2は山口県の市町村区域の変化を旧市町村と合併後市町村で比べたものである。旧市町村では人口8000人未満の自治体がほとんどであるが、合併後は町村合併促進法と新市町村建設促進法により菊川町と須佐町以外の自治体において適正規模である8000人を満たしている。中学校数については、合併前から変化していない自治体もあるが、中には合併後に中学校数が減少している自治体も見られる。美東町では4校が1校まで減少しており、統廃合が進んだ理由として、1958年に施行された義務教育諸学校施設費国庫負担法により、統廃合による新增築の補助率が高められたことが関係している。表3は合併後中学校の統廃合が行なわれた中学校数を合併経過年毎、生徒数別に示したものである。合併経過年数が増加する事に生徒数が少ない学校が廃校になっていることが分かる。だが、9年目までは生徒数が300人以上いる中学校でも統廃合が行われていることが分かる。そこで本稿では合併後9年目までを合併による再編と捉え、個別に詳細な検証を

旧町村名	人口	中学校数	合併後町村名	人口	中学校数	合併年	旧町村名	人口	中学校数	合併後町村名	人口	中学校数	合併年	
殿后村	2409	1	豊田町	12461	2	1954	嘉年村	2447	1	阿東町	18812	5	1955	
豊田中村	3694	1					八坂村	4303	1					
豊田下村	2603	1					徳佐村	6784	1					
西市町	5465	2					地福村	3903	1					
田淵村	2668	1					徳生村	3110	1					
小串村	3111	1	豊北町	25668	2	1955	仁保村	5546	1	大内町	14221	2	1955	
栗野村	3392	1					大内村	5876	1					
阿川村	3679	1					小鱈村	3595	1					
阿川村	4316	1												
神田村	6338	1												
神立村	2045	1					角島村	2045	1					
小串村	5426	1					袖野村	2867	1					
川瀬村	5788	1	豊浦町	22132	2	1955	八坂村	5099	1	徳地町	16770	5	1955	
川瀬村	4898	1					出雲村	3860	1					
豊西村	4133	1					島地村	4130	1					
宇賀村	5782	1					串村	2201	1					
岡枝村	3346	1					福川町	7943	1	南陽町	27363	3	1955	
増崎村	2010	1	菊川町	9827	1	和田村	2932	1						
豊津村	4912	1					長穂村	1580	1	都濃町	10154	4	1954	
美海村	5545	1	油谷町	15883	3	1954	中須村	2425	1					
宇津賀村	3006	1					須々方村	3640	1					
向津良村	6674	1					高根村	2791	2	錦町	11137	5	1955	
厚狭町	18348	1	山陽町	27306	2	1956	深瀬村	2362	1					
埴生町	8015	1									庄瀬町	6678	2	
吉野村	3308	1	楠町	11519	3	1955	川越村	3176	1	周東町	18084	5	1955	
万壽村	3513	1					米川村	3889	1					
船木町	7760	1					高森町	9049	2					
共和村	4450	1	秋芳町	10668	2	1955	福生村	3902	1	平生町	14106	2	1955	
別府村	2518	1					平生町	5595	1					
秋吉村	2327	1					大野村	2336	1					
星立村	2435	1					菅根村	2568	1	大島町	14629	4	1955	
赤瀬村	2684	1	美東町	9950	1	1954	佐賀村	6147	1					
大田町	4020	1					小松町	5819	1					
綾木村	2137	1					蒲野村	4684	1					
真島田村	2835	1					屋代村	3867	1	阿武町	10010	3	1955	
宇田郷村	2549	1	阿武町	10010	3	1955	沖浦村	5607	1					
福賀村	3017	1									安下庄町	10310	1	
須佐町	6277	1	須佐町	7952	2	1955	日真町	5069	1	楠町	12993	2	1955	
弥富村	5862	1					白木村	8189	2					
江崎町	4763	1	田万川町	8581	2	1955	森野村	3781	1	東和町	14397	5	1955	
小川村	4251	1					油田村	4996	1					

Relationship of the Reorganization Process of Junior High Schools and Municipal Mergers

Reorganization Process of Public Junior High Schools by Municipal Mergers of Showa in Yamaguchi Prefecture

Part 2

MITANI Ryota, NAKA Junichi, USIJIMA Akira, NAKAZONO Mahito

行う。図 2 は合併後 9 年目までに統廃合が行なわれた自治体を示している。計 8 自治体が該当自治体になり、豊北町・豊田町・豊浦町・大畠村・大内町・美東町・柳井市・美和町である。次章からは、この 8 自治体に関して個別に分析を行う。

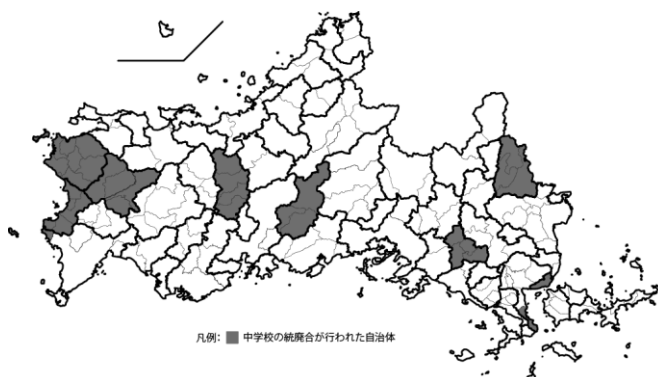


図 2 9 年以内に統廃合が行なわれた自治体

表 3 廃校になった学校の生徒数規模

生徒数(人)	合併経過年																			合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19			
~100				1		1				1	3			1				24	31	
101~200	1		1	3		3	1	3	2	3	1	1	1			1		21		
201~300			1	1		1	1	1	1	1	1		1		1		10			
301~400	1			1				1									4			
401~500																	0			
501~								1									1			
合計	2	0	2	6	0	5	4	4	4	2	7	1	2	2	1	1	24	67		

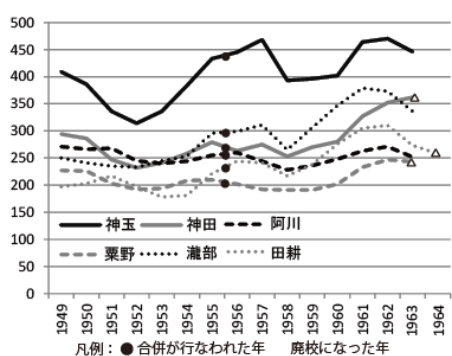


図 3 豊北町 生徒数推移

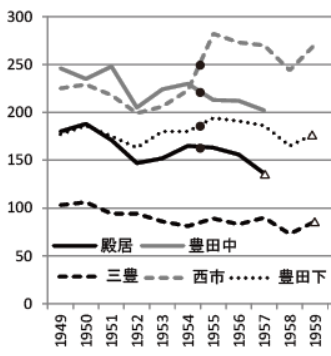


図 4 豊田町 生徒数推移

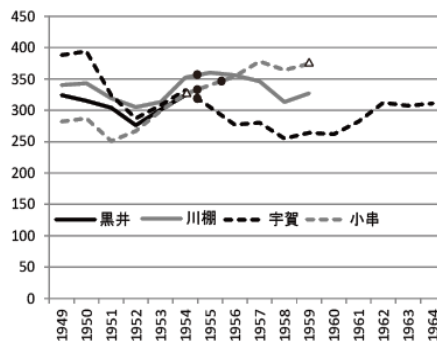


図 5 豊浦町 生徒数推移

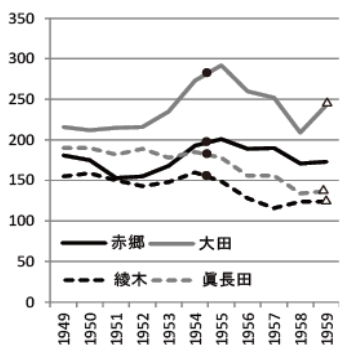


図 6 美東町 生徒数推移

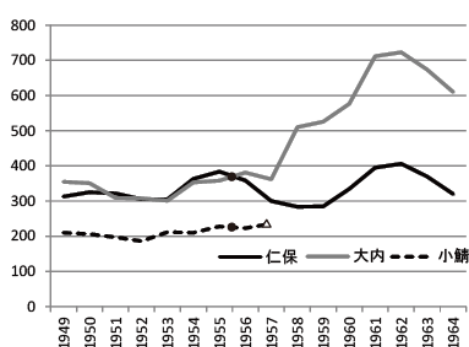


図 7 大内町 生徒数推移

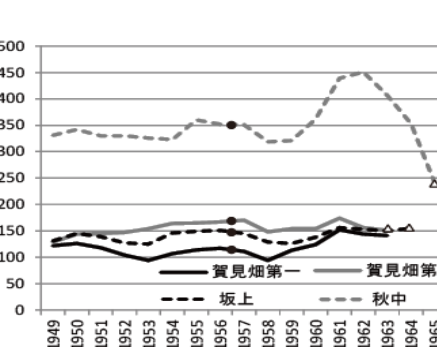


図 8 美和町 生徒数推移

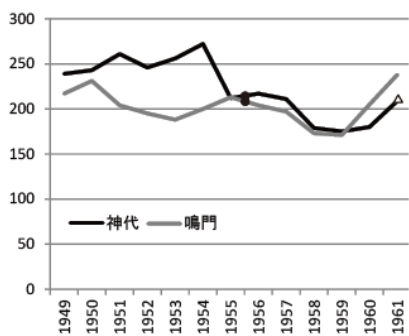


図 9 大畠村 生徒数推移

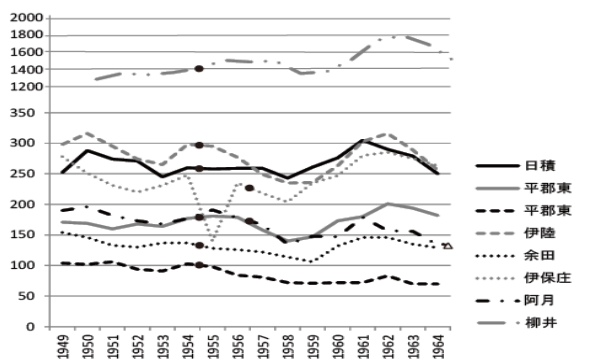


図 10 柳井市 生徒数推移

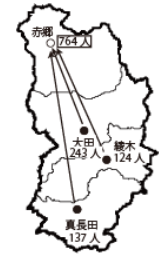
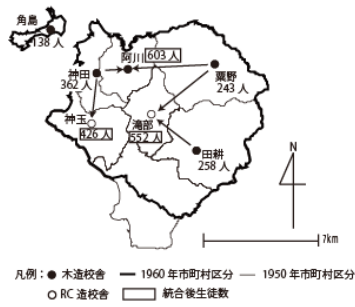


図 11 豊北町 統廃合状況

図 12 豊田町 統廃合状況

図 13 豊浦町 統廃合状況

図 14 美東町 統廃合状況

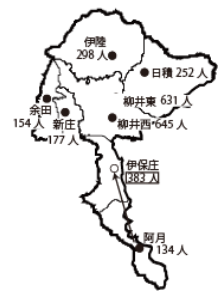


図 15 大内町 統廃合状況

図 16 美和町 統廃合状況

図 17 大畠村 統廃合状況

図 18 柳井市 統廃合状況

3. 市町村毎の事例分析

まず各自治体に関して、生徒数推移（図 3～図 10）^{注1）}と自治体別地図（図 11～図 18）^{注2）}を用いて個別に事例分析を行う。豊北町は合併後に生徒数が増えている中学校が多いにも関わらず 1963-1964 年に統廃合が行われている。滝部中学校、阿川中学校、神玉中学校に田耕中学校、栗野中学校、神田中学校が統合される形となり、統合後、名称がそれぞれ、豊北第一中学校、豊北第三中学校、豊北第二中学校となった。また統合を機に、豊北第一中学校は 1965 年に、豊北第二中学校は 1969 年に豊北第三中学校は 1967 年にこれまで木造であった校舎を RC 造の校舎に新築している。次に、豊田町は学校毎の生徒数に大きな差が見られ、生徒数の多い豊田中中学校と西市中学校に殿居中学校と三豊中学校、豊田下中学校が統合される形となった。豊田中中学校と西市中学校も統合を機に豊田西中学校、豊田東中学校と名称変更を行っている。また豊田西中学校は統合した 1958 年に校舎を RC 造に建て替えており、これは豊浦郡初の RC 二階建て校舎である。豊田東中学校は統合から RC 造への建て替えまでの 1 年間は生徒を収容しきれず、分散授業が行なわれていた。豊浦町は川棚中学校に小串中学校が、豊西中学校に黒井中学校が統合された。宇賀中学校は合併後も生徒数がそこまで増減しておらず、統廃合を行われていない。統廃

合後、川棚中学校は豊浦中学校に豊西中学校は豊洋中学校に名称変更を行っている。豊浦中学校は 1963 年に RC 蔵の校舎に新築し、豊洋中学校は統合を行った 1955 年に合併後としては数少ない木造校舎を新築している。美東町は生徒数が 1 番多い大田中学校ではなく赤郷中学校に統合する形で 4 校が 1 校になっている。この際名称を美東中学校に変更し、その 1 年後に RC 造校舎の新築が行われている。新築するまでの 1 年間は豊田町と同じく分散授業を行っていた。大内町では、仁保中学校は統廃合を行わず、小鯖中学校が大内中学校に統合されている。1958 年に統合を行ってから 1962 年までは生徒数も増加していたが、それ以降は減少傾向をとっている。大内中学校は統合の際、小鯖中学校の生徒を全員収容することができなかったため新 1 年生から大内中学校へ収容し 2-3 年生はそのまま小鯖中学校に残り授業を行った。その後、RC 造の校舎が完成したことで全員収容することが可能となっている。統廃合を行わなかった仁保中学校も大内中学校と同時期に校舎の増築を行っている。これはベビーブームによる生徒数増加に対応するためである。美和町では 1964 年に賀見畑第二中学校が、その 1 年後に秋中中学校が賀見畑第一中学校に統合された。最初の統合で名称が三輪中学校になり、次の統合で RC 造の校舎に建て替えられている。美和町では統合する際に通学距離が一方

に偏り、特に遠隔地となった秋中・阿賀地区からは反対意見が多く出たが、通学費の補助や、バス路線の新設、寄宿舎の設置などを条件とすることで統合へと至っている。大畠村では、元々神代中学校と鳴門中学校の2校だけであったが、1962年にベビーブームの人口増加により今後生徒を収容できなくなることを危惧し、統合が行われた。そして、その2年後の1964年にRC造校舎に建て替えを行っている。最後に、柳井市はほとんどの中学校において、統廃合が行われていないが1965年に伊保庄中学校が阿月中学校を統合している。これは生徒数減少に起因するものではなく、大畠村と同様にベビーブームによる人口増加に対応するためである。統合の2年後の1964年にはRC造の校舎を新築している。

4. まとめ

昭和の市町村合併による新制中学校の再編過程について分析を行ってきたが、得られた知見は以下のとおりである。①合併後に統廃合が進められたのは1958年施行の義務教育諸学校施設費国庫負担法による影響が考えられる。②統廃合の際に校舎が新築された要因としては、義務教育諸学校施設費国庫負担法による新增築の補助率が高められた他に、ベビーブームによる生徒数増加への対応措置が考えられる。③1960年代になるとRC造校舎の普及により、それまで大半を占めていた木造校舎の数が減少をたどった。

今後の課題としてデータの不足している部分を補填し、再編過程の地域性を見ていく必要がある。また、昭和の市町村合併だけでなく平成の市町村合併にも目を向けて比較していく必要がある。

注釈

- 1) 図3-図10の生徒数については1949年以前のデータが不明なため1949年からの数字にしている。
- 2) 図11-図18の中学校名については、1947年の創設時の名称を用いており、統合後の名称変更については文中に記述している。

参考文献

- 1) 山口市：山口市史史料編,pp.756-773
- 2) 徳地町役場：徳地町史,pp.373-443
- 3) 阿知須町：阿知須町史,pp.507-514
- 4) 小郡町：小郡町史,pp.469-483
- 5) 宇部市：宇部市史通史編,pp.679-683
- 6) 山陽町教育委員会：山陽町史,pp.884-898

- 7) 小野田市：小野田市史通史編,pp.923-940
- 8) 美東町：美東町史通史編,pp.527-530
- 9) 秋芳町：秋芳町市史,pp.937-955
- 10) 美祢市：美祢市史,pp.1057-1093
- 11) 菊川町：菊川町史三,pp.6060-619
- 12) 豊浦町：豊浦町史二,pp.709-719
- 13) 豊北町：豊北町史二,pp.355-394
- 14) 下関市：下関市史終戦-現在,pp.526-531
- 15) 長門市：長門町史歴史編,pp.357-387
- 16) 油谷町：油谷町史,pp.792-807
- 17) 日置町：日置町史,pp.705-711
- 18) 三隅町長：三隅町の歴史と民俗,pp.333-339
- 19) 阿東町長：阿東町誌,pp.380-388
- 20) 阿武町：阿武町史下巻,pp.297-311
- 21) 旭村長：旭村史,pp.573-581
- 22) 福栄村：続・福栄村史,pp.263-277
- 23) 田万川町：田万川町誌,pp.1188-1189
- 24) 大和町：大和町史,pp.626-643
- 25) 光市：光市史,pp.913-947
- 26) 川上村：川上村史,pp.805-826
- 27) 萩市：萩市史,pp.693-696
- 28) 鹿野町：鹿野町誌,pp.764-794
- 29) 下松市：下松市史,pp.1017-1023
- 30) 和木町：和木町史,pp.1074-1084
- 31) 美川町：続・美川町史,pp.189-218
- 32) 由宇町：属・由宇町,pp.881-916
- 33) 橘町：橘町史,pp.569-578
- 34) 防府市：防府市史通史Ⅲ現近,pp.783-791
- 35) 大畠町：大畠町史,pp.806-824
- 36) 美和町：美和町史,pp.1279-1292
- 37) 錦町：錦町史,pp.1373-1387
- 38) 久賀町：久賀町史現代,pp.318-335
- 39) 周防大島町：続・周防大島町史,pp.545-550
- 40) 上関町：上関町史,pp.682-697
- 41) 田布施町：田布施町誌,pp.991-1007,pp.1021-1031
- 42) 山口県中学校長会：山口県中学校教育五十年,pp.201-211
- 43) 文部科学省：学制百年史

* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生
 ** 山口大学大学院理工学研究科 博士前期課程
 *** 山口大学理工学研究科 助教・博士
 **** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.
 ** Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
 *** Assistant Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.
 **** Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.